

令和 8 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 8 年 8 月 18 日作成

大 学 名 : 上越教育大学

タイトル : ~今日から始める自分アップデート大作戦~

1. 本ワークショップに関連する SDGs の目標に○印をつけてください。

○印	SDGs 17 の目標	○印	SDGs 17 の目標	○印	SDGs 17 の目標
	 ① 貧困をなくそう		 ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬ 気候変動に 具体的な対策を
	 ② 飢餓をゼロに		 ⑧ 働きがいも 経済成長も		 ⑭ 海の豊かさを 守ろう
	 ③ すべての人に健康と 福祉を		 ⑨ 産業と技術革新の 基盤をつくろう		 ⑮ 陸の豊かさも 守ろう
○	 ④ 質の高い教育を みんなに	○	 ⑩ 人や国の不平等 をなくそう		 ⑯ 平和と公正を すべての人に
	 ⑤ ジェンダー平等を 実現しよう	○	 ⑪ 住み続けられる まちづくりを		 ⑰ パートナリーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥ 安全な水とトイレを 世界中に		 ⑫ つくる責任 つかう責任		

2 : 本ワークショップの要旨

本ワークショップでは、小学生高学年から高校生を対象に、多様な背景や価値観を持つ人々と共に安心して生活できる社会の在り方について、体験的な活動を通して考えていくことを目的としている。参加者同士の対話や協働を通じて、普段の自分にとっての「当たり前」を問い直し、異なる立場の人への理解を深めることや、災害時などのもしも（利き腕が変わる・避難所にいる等）な状況になった場合の課題を想定することなど、多文化共生や支え合いの重要性について考察することを目指している。SDGs の視点や国際理解などの視点とも関連付けながら、多様性を尊重する態度や他者と協働する力などを育むことを目指している。

3：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

自他の「普通」の違いや無意識の障壁に気づき、多様な背景を持つ人々と互いを認め合いながら、主体的に協働・支え合う姿勢と視点を身につける。

4：本トピックをとりあげる理由

- ・社会的背景：グローバル化や少子高齢化により多様な人々との共生が進む一方、相互理解の不足による偏見やすれ違いが課題となっているため。
- ・教育的背景：学校現場に残る「全員同じ」という無意識の前提を見直し、誰もが安心して学べる環境へアップデートする視点が求められているため。
- ・実践的思考の契機：体験活動や「災害時」といった具体的な場面を設定することで、日常では見落としがちな困難や支援の必要性を自分事として考えるきっかけとするため。

5：活動過程（使用時間：45分・90分 参加人数：1グループ3～4人）

※全体を通して、小学生から高校生を対象とし、発達段階に応じて発問や活動内容を調整いたします。

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入：起 (5分)	アイスブレイクと目的の共有	Q：左利きの人はいますか？ (いた場合、日常生活の中で不便なところ)	簡単な質問で実は日常に潜む不便を楽しく見つけ、気づかせる。	なし	・はさみが右利き用で不便 ・ドアノブをひねるのがちょっと不便 ・ファミレスのスーパーのおたまが右利き用
展開：承 (10分)	体験アクティビティ「もしも利き腕が変わったら？」 どういう視点で障壁を見つけていこう	・「今から1分間の動画を見ます。左利きの人々が日常生活で困る場面に注目してください。」 ・動画視聴後、「どんな場面で困っていたかな?」「困りごと	・普段使い慣れていない側の手を使う体験を通して、道具や環境が特定の使い方として設計されていること	・左利きに関する動画(約1分) ・ワークシート ・筆記用具 ・はさみ ・定規	・「はさみが使いにくい。」 ・「時間がかかった。」 ・「普段は気付かなかったけど、不便だった。」などの感想が予想される。 ・左利きの児童生

		の原因は何だったと思いますか？」と問いかける。 ・「今日は『もしも利き腕が変わったら？』という体験をします。左手だけを使って活動してみましよう。」 ・あらかじめ決めたグループで、左手を使って文字を書く・はさみを使う・定規で線を引くなどの活動を行う。 ・グループ内に左利きの児童生徒がいる場合は、「普段困ることや工夫していることがあれば教えてください。」と共有してもらおう。 ・活動後、「困ったことは何でしたか？」「自分の側と、道具や環境の側の両方立場から考えてみよう。」と話し合わせる。	に気付くことで、日常生活にある「障壁(バリア)」に気付く。 ・困りごとは本人だけの問題ではなく、環境との関係によって生じることを理解する。 ・他者の立場に立って考える態度を育てる。	徒には無理に発表を求めず、本人の意思を尊重する。 ・「左利きだから大変」という結論ではなく、「環境によって困りごとが生まれる」という視点に教師がまとめるよう留意する。
--	--	---	--	--

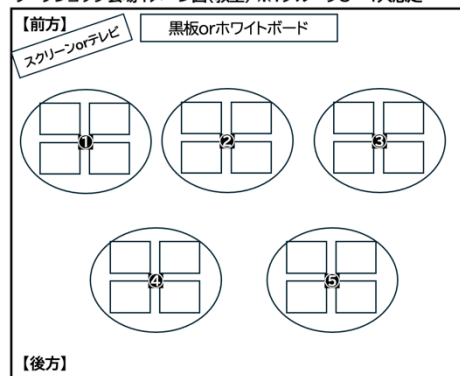
展 開：転 (50 分の場合：25 分 90 分の場合：35 分) 移動に 10 分かかると想定	実際に学校の中の「障壁」を見つけにいきましょう 見つけた「障壁」をどのように改善すればよいか？ 学校周回する際のルールを説明。	・「学校内に潜む『障壁』となり得そうな部分を見つけてみましょう」 ・学校を回る際のルールを説明する (1) 周回する際は走らない (2) グループは固まって移動する (3) 大きな声を出さないで、周る (4) グループごとに学校内を周回する。 ↑ここまでで 5 分を使用。 ・グループごとに学校を周回 ・左利きにとって障壁となりそうな部分に限らず、車椅子の方にとって障壁となりそうな部分や外国にルーツを持つ子どもにとって障壁となりそうな部分などを探し出す。	・実は身近に潜んでいる「障壁」に気付くことができる。 ・見つけた「障壁」をどのように改善していくのかを思考する力を育成する。	・バインダー ・ワークシート	・「小さい段差でも車椅子の人は通れないから、スロープを設置したら良いと思う。」 ・「漢字が読みにくいから、特別教室の読み方が分からないのでは？」 ・「トイレのマークは、外国にルーツを持つ人にとって分かりにくいのでは？」 ・「エレベーターを学校内に設置したら、車椅子の人や怪我人も階の移動がしやすくなりそう。」
--	--	---	--	------------------------------	--

		・見つけ出した障壁をどのように改善すれば良さそうかを考え、ワークシートに記入する。			
まとめ：結 (45 分の場合：5 分、90 分の場合：15 分)	まとめ	みんなはどんな障壁を見つけたかな？ 学校周回を踏まえて、どのように感じたかを書いてみよう！ (90 分の場合) 自ら気づいたことをグループで共有してみよう！	日常を見る「新しいメガネ」を獲得させる： 今回の「利き手」の体験にとどまらず、「世の中には、自分が見落としているだけで環境による障壁を感じている人がいるかもしれない」という、他者や社会に対する想像力の種をまく。	ワークシート	環境への気づき： ・「自分が下手なわけじゃなくて、道具の作りのせいで失敗するのが理不尽だった。」 ・「右利き用に作られた世界の中で、左利きの人が普段どれだけストレスを感じているか初めて分かった。」 ・「可哀想」という同情で終わらせない： 「左利きの人は大変だから優しくしよう」という単なる感情論・同情で着地させないことが重要。「どうすればその障壁を取り除けるか？」「環境をどう変えればいいか？」という、構造に対するアプローチへと思考を向ける声かけを意識。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

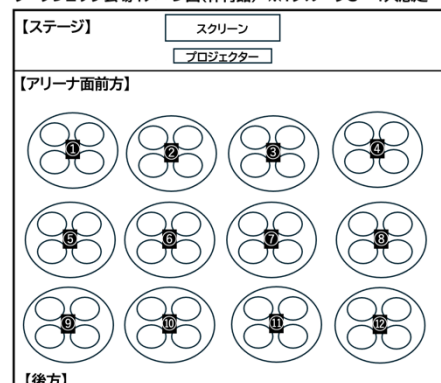
クラスの場合：教室

ワークショップ会場イメージ図(教室) ※1グループ3～4人想定



学年の場合：体育館等

ワークショップ会場イメージ図(体育館) ※1グループ3～4人想定



7：使用する教材

- ・ 左利きに関する動画
- ・ 筆記用具
- ・ はさみ
- ・ 定規
- ・ バインダー
- ・ ワークシート

8：参考にした資料

なし

9：その他

なし